

【基礎から学ぶ収納講座】

どうすればいいの？ 収納計画のABC



現代社会は物に溢れています。

洋服や食品、電化製品やかさばる布団など、生活をする上で必要な物の量はどんどん多くなっており、一昔前に建てられた住宅の一般的な収納容量では到底対応ができません。これから家を建てる方は、事前にしっかりとした収納計画を立てることが大切です。まずは、それらが本当に必要か、出し入れしやすい状態にするにはどうすればよいかを考え、必要な収納スペースを割り出します。

ものを分類し、使いたい場所にまとめて収納するのが基本的な考え方です。

しまう収納と見せる収納

収納の基本は、「欲しい所に欲しい物を効率的に配置すること」にあります。

そして、最近では「物を隠す」ことばかりに気を取られて、装飾的な役割やゆとりのある美しい空間づくりを忘れがちです。

絵皿やコーヒーカップのように飾りとして美しい生活用品などもあります。収納する物や場所によって収納計画を立てるよう心掛けてください。



集中収納と分散収納～部屋がきれいに片付く“分散収納”

生活の中で、よく使うものは使う場所の近くに収納する。これが、整理整頓の基本です。物が片付かない！という方は、使う場所に使うものをしまう収納スペースがないからかもしれません。

収納スペースには、押し入れや納戸などあまり使わないものを収納する「集中収納」と、よく使うものをすぐ取り出せる「分散収納」がありますので、それぞれ使い分けて片付けましょう。

まずは、散乱するものを部屋ごとにチェック！

テーブルの上やキッチンなど、頻繁に散乱するものを部屋ごとに書き出します。こうすることで、部屋ごとに必要な収納家具も見えてきます。



散乱するものを分類

部屋ごとに書き出したら、(1) 毎日使うもの、(2) ときどき使うもの、(3) ほとんど使わないものと3分類します。


出しては片付け、片付けては出し…を繰り返しているうちに部屋が散らかってしまうのは、この分類ができていないからです。家族が使う頻度をよく考えて分類しましょう。

分類したものを収納スペースへ

- (1) 毎日使うもの、(2) ときどき使うものの順で、収納していきます。
- (3) ほとんど使わないものに関しては、「集中収納」のスペースへ(ものを1カ所にまとめて保存・収納しようという方法が集中収納)。

年に何回かしか着ない衣類(冠婚葬祭などの衣類)はひとまとめにして納戸や物置へしまい、オフシーズンの衣類などは押入やクローゼットの奥などに収納します。


分散収納//壁面収納



「分散収納」の代表的スタイルが壁面収納です。壁面に作る収納は取り出しやすく、見やすく、とても便利。効率的に収納を確保することができます。インテリアとのコーディネートも大切なポイントです。

上から見た図

集中収納//ウォークインスタイル



「集中収納」の代表例がウォークインスタイルです。これは収納のための納戸を作るスタイルで、大きな収納力を持つことができます。ウォークインというように中に歩くスペースができるように設計します。

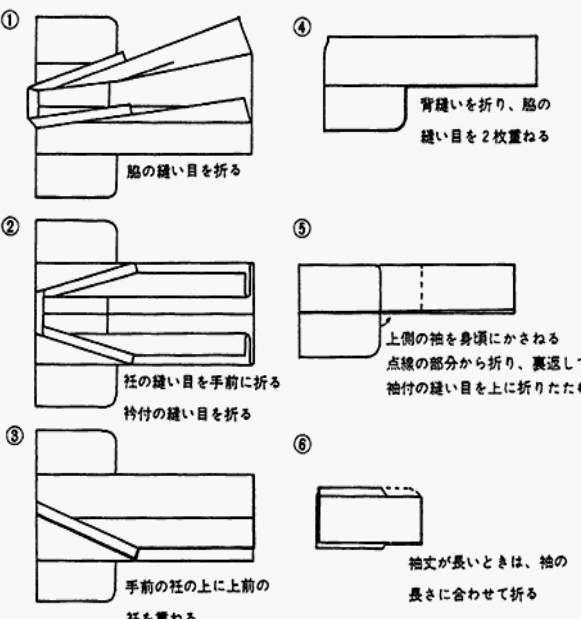
上から見た図

衣類の収納計画

収納の中でも特に整理が難しいのが、衣類・雑貨を中心とした身の回り品です。スペースがいくらあっても足りない、という声はよく聞かれます。ただ単にスペースを用意するのではなく、それぞれの物の形にあった形態で効率良く納める工夫が大切です。まずは現状のクローゼットを見直して、着なくなった衣類などを整理することから始めてみましょう。

●収納方法の種類

長着のたたみ方



- ① 脇の縫い目を折る
- ② 衿の縫い目を手前に折る
袖付の縫い目を折る
- ③ 手前の衿の上に上前の衿を重ねる
- ④ 背縫いを折り、脇の縫い目を2枚重ねる
- ⑤ 上側の袖を身頃にかさねる
点線の部分から折り、裏返して袖付の縫い目を上に折りたたむ
- ⑥ 袖丈が長いときは、袖の長さに合わせて折る

衣類の収納法には「置く」以外にも「丸める・たたむ・吊るす」など3つの方法が挙げられます。

下着、靴下、スカーフ、ベルトなどは丸めて引出しの中に入ると場所を取らず、セーター、タオル、布団などの柔らかな物、ある程度しわになってもかまわない物が丸める収納法に適しています。

ブラウス、シャツ、セーターなどほとんど衣類は、たたむことで収納スペースが小さくなります。また、日本の着物は最初からたたんで収納するように考えられた、きわめて特異な衣類です。

背広やスーツ、ズボン、コートは、たたんで収納するよりも吊るす方が適切です。たたむことによって形くずれの原因になったり、たたみじわができるからです。また選びやすさの点からネクタイやベルトも吊るした方がいいでしょう。

●季節・使用頻度と収納

季節ごとの衣類の分類、行事に着る衣類の収納法なども、考えなければならない収納の大切なテーマです。いつ、誰が、どのくらいの割で着るのか、といった使用頻度による分類もぜひ考えたいものです。よく着る衣類については出し入れにも便利なスペースに収納します。外出着はクローゼットの少し奥の方に入れても差し支えありません。オフシーズンの衣類や七五三の着物などは部屋以外の別のスペースに納めてもいいわけです。



●換気や湿気と収納場所



衣類の収納場所はどこでもよいわけではありません。湿気の多い場所は虫が食ったり、カビも生えやすいので、避けた方がよいのですが、気密性の高いマンションなどはそうも言ってもらえません。

最近では収納ケースもプラスチック製をはじめいろいろな種類が出回っていますが、ここで古来から優れた収納法を見直してはいかがでしょうか。

桐の箱やお茶の箱は、箱自体が湿気を呼吸するので、通気性には申し分ありません。さらに通気性をよくするのなら、衣装ケースの下にスノコを敷くのも有効です。いずれにしても家の構造や状態に合わせた収納家具・用具を選ぶことです。

●衣類のサイズと収納

衣類を効率よく収納するためには、衣類のサイズ・数など、微密な情報を得ておくことが必要です。

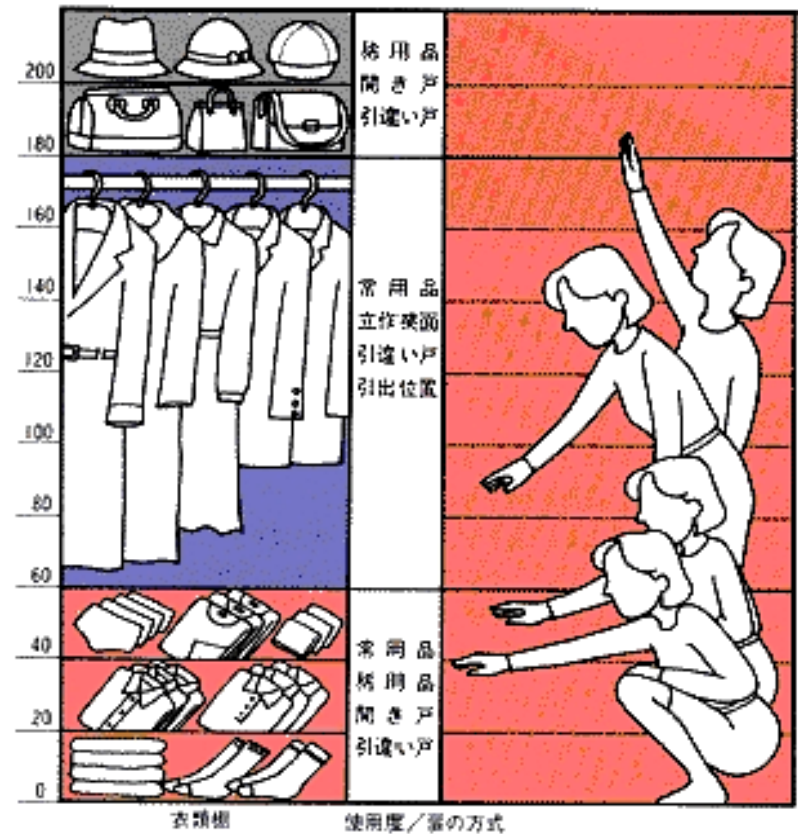
そして、それぞれを収納するのに適したスペースを確保することが基本です。そのためには収納する物のサイズがどのくらいあるのか、細かく把握しておきましょう。

クローゼット自体の高さは180～230cmが一般的です。衣服の中にはスカートやブレザーなど丈の短い物も多くあるのでこの高さを利用して効率のよい収納を考えましょう。

丈の短い物はハンガーを上下2段にして収納すると効率的です。

またその上下を利用してバックや、小物などのスペースが取れます。

●人体と家具の寸法(クローゼット)

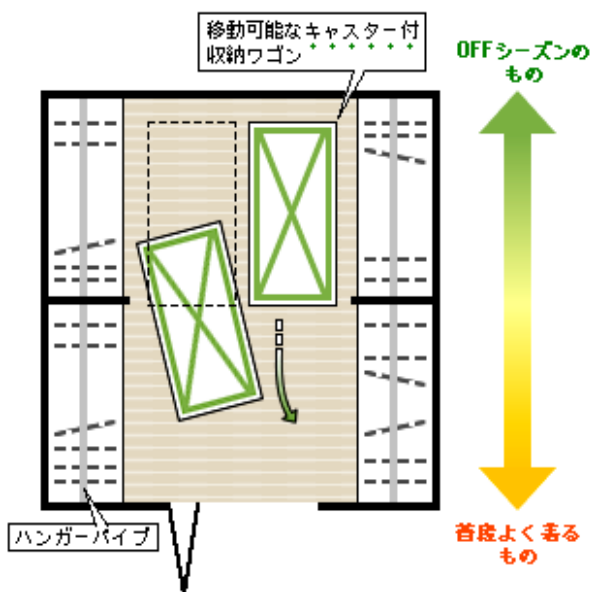


●ウォークインクローゼットのすすめ

納戸や物置を、通り抜けができるウォークインスタイルにすることで、「移動」と「収納」という一挙両得の大容量のスペースを作ることができ、片付けの手間を軽減します。かさばるものは床置きでき、服や小物が見やすく選びやすく、しかもきちんと整頓され、毎日の身支度も楽になります。スペースが広いため、衣類だけではなく、日常的には使わない趣味のゴルフセットや釣り道具、客用布団などを置いたり、大きなものを収納できます。

「吊す」「置く」「しまう」の収納パーツを自由に組み合わせ、奥行きのある棚を設けることができます。

さらに、布団がすっぽり入る収納ボックスを作ったり、収納したいものに応じて、フレキシブルに使えることもウォークインクローゼットの長所です。



墨掛道具 すみかけどうぐ

はかる・しるす道具



日本の木造建築の伝統のかげには、大工の肉体の一部となり、使い馴らされてきた多くの大工道具がありました。代表的な大工道具をとりあげ、解説します。

1 墨をつける道具

2. 墨さし

墨さしは、一端がヘラ状、反対側が細い棒状になっています。

墨汁を付けて、ヘラ状の側で線を、棒状の側で記号、あるいは文字を書くのに使用します。

墨壺、朱壺と共に用いられます。

材質は竹でできています。

ヘラ状の側は巾約10～15mm、先端から約1～2cmの深さまで縦に薄く割り込みをいれ、ヘラ先の部分を斜めに切り落としています。

この部分を曲尺などに沿わせて線を引きます。

熟練者は、割り込みを30～40枚位に極めて薄くいれるといえます。



3. 矢立

矢立とは小型の携帯用筆入れのことです。

墨を蓄える墨入れと、筆を収納する棹部分からなっています。

番付けの時などに、墨さしのかわりに使用することがあります。



▲ 矢立各種